

【シーズン移行意見交換会議事録】

開催日：2023年10月23日（月）18:30～20:00

場所：デーリー東北ホール

参加者：代表取締役会長 細越 健太郎

取締役事業統括本部長 菅原 康平

【菅原】

これより、シーズン移行意見交換会を開催いたします。

意見交換会を開催するにあたり代表取締役会長 細越健太郎よりご挨拶させていただきます。

【細越】

皆様、こんばんは。ヴァンラーレ八戸代表取締役社長の細越と申します。

本日は遅い時間にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

Jリーグが今進めておりますシーズン移行の意見交換会ということで皆様にお時間を頂戴致しました。

概要については菅原の方から後ほど説明させていただきますが、Jリーグのシーズンが移行するということがどういう風にクラブに関わるステークホルダーの皆様に影響があるのかというところを、今日は率直なご意見を頂戴できればと思っております。

この議論は私が今参加させていただいているJリーグの実行委員会の中で今年の3月ぐらいから議論が進められております。シーズン移行に関しては以前から話題になっておりましたが、本格的に話が進んだのが4月以降ということで今急ピッチに実行委員会などJリーグ全60クラブの代表の皆さん、Jリーグ、JFAやJFL、大学生、高校生を含めた様々なカテゴリーの中でいろいろと議論を交わしております。

皆様の声を私の方でしっかりとJリーグの方に届けられればと思いますので、ぜひ忌憚のないご意見をよろしく願います。

【菅原】

ありがとうございました。資料に沿って進めていきたいと思っております。

1. Jリーグ・日本サッカーが目指すものとは？
2. 『シーズン移行』とは？
3. なぜ『シーズン移行』を検討しているのか？
4. 『シーズン移行』すると何が実現できるのか？
5. 現在の検討状況
6. ヴァンラーレ八戸にとってのシーズン移行とは？
7. ご意見・ご質問回答/質疑応答

3

私の方からは冒頭、Jリーグならびに日本サッカー協会が今どういう話をしているのかご説明させていただきながら進めていきたいと思っております。

1. Jリーグ・日本サッカーが目指すものとは？

Jリーグ・日本サッカーの現状というところでご説明を簡単にさせていただくと、Jリーグができて30年が経ち、次の10年～30年に向けてどのように進んでいくのかを議論している最中です。30年が経ち、Jリーグには60クラブまで増えて、それぞれの地域に根差した活動をして現在に至っております。Jリーグがこれから向かっていくところでは、ア“ジアで圧倒的なリーグ”になるということ、また“日本代表がW杯でベスト8”そして、優勝を目指していくというのが今後に向けての話が出ております。リーグの経営の規模についても、特にヨーロッパの五大リーグと比べると大きな開きがあるというところから、これからJリーグがよりグローバルな活躍ができるようなものを目指したいということで、ご説明させていただきました。

1. Jリーグ・日本サッカーが目指すもの *議論中

Jリーグ・日本サッカーの現状認識

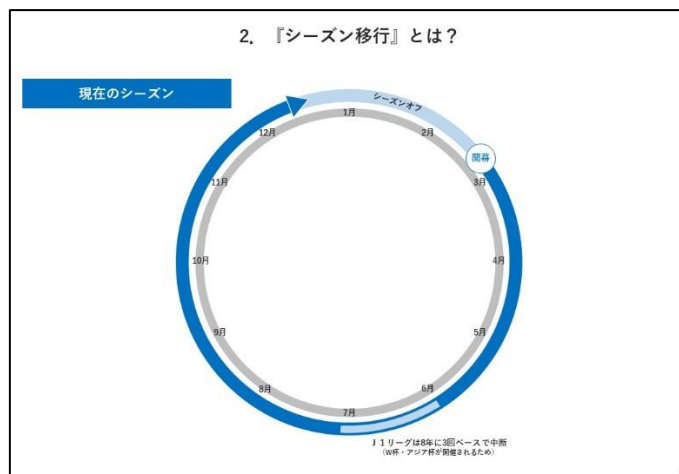
- “まず目指すべき状態”は「アジアで圧倒的なリーグ」になることや、「欧州リーグ選手とJリーグ選手による日本代表でW杯ベスト8以上」になること。そこに到達した上で、“更なる高み”を目指していく。
- Jリーグは開幕から30年が経った。当時は英プレミアリーグと同程度の経営規模であったが、そこから欧州トップリーグは大きな成長を遂げている。Jリーグも30年の歴史を土台に、「競争」の段階へ向かいたい。現時点のトップ層のクラブからは「閉塞感がある」という声も上がっており、世界と戦っていくための環境構築が必要と考える。
- ACLの大会構造変更やクラブW杯の拡大によって「アジアで勝つこと」「世界と戦うこと」はJリーグ全体の成長テーマである「トップ層がナショナル（グローバル）コンテンツとして輝く」を実現していく上で重要となる。

5



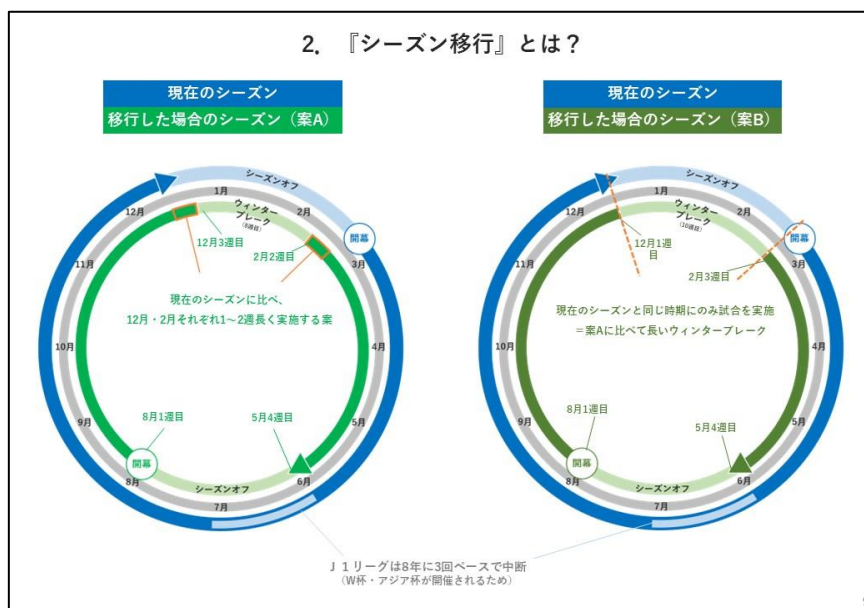
次の資料（上記）が、先ほど冒頭に申し上げた通りで、Jリーグのクラブがアジア（あるいは世界で）より輝けるようなクラブを目指していきましょうというものです。そしてもう一つが、それぞれの地域で活動するクラブ、我々ヴァンラーレ八戸もそうですが、60クラブがそれぞれの地域で輝くために、Jリーグとしてまたクラブとしてどのように進めていくかを考えています。細かい内容に関しては資料に記載ございますので、ご覧いただければと存じます。

『シーズン移行』とは？



シーズン移行についてですが、まずは現在のシーズンの流れを資料の方に記載しております。我々のシーズンは今年で言うと、J3リーグが3月の1週目に開幕し、J1・J2は2月の下旬に開幕をしていて、そこからリーグ戦が進み、12月の1週目・2週目くらいにリーグ最終戦を迎えるというのが現在のカレンダーとなっております。

2. 『シーズン移行』とは？



次に、今Jリーグから出ているシーズン移行のスケジュール案が2つ（A案/B案）ございます。A案をご説明させていただきます。

8月1週目にリーグ戦開幕、そこからリーグ戦を進めていき12月の約3週目までリーグ戦を進めていきます。そこから約8週間ウィンターブレイクを挟み、2月2週目にまたリーグ戦を再開して5月末までリーグ戦を行う案です。

一方B案についてですが、開幕は同じ8月1週目スタートという流れですが、12月1週目に試合をしたのちそこから約10週間ウィンターブレイクとなります。その後2月3週目にリーグ戦を再開して5月最終週にリーグ最終戦を行うというスケジュールとなっております。

2. なぜ『シーズン移行』を検討しているのか？

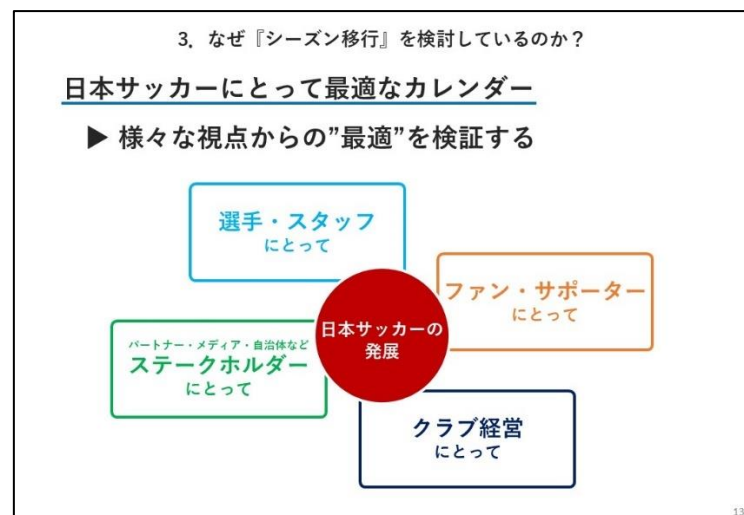
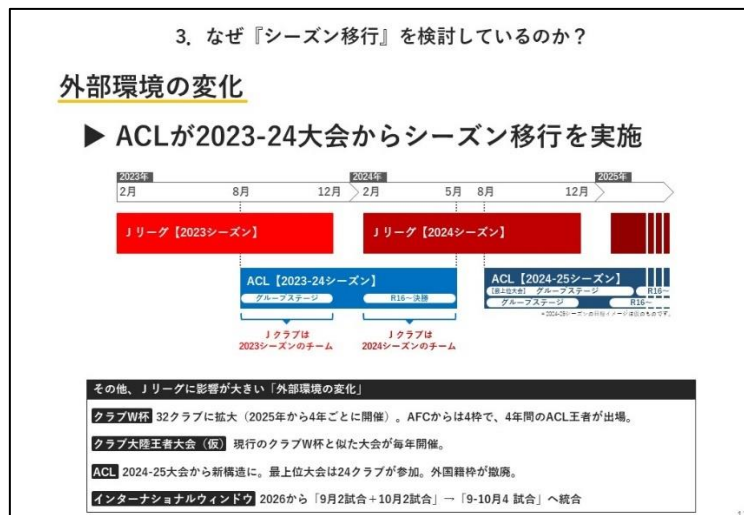
3. なぜ『シーズン移行』を検討しているのか？

外部環境の変化をきっかけに、

日本サッカーにとって最適なカレンダーを考える。

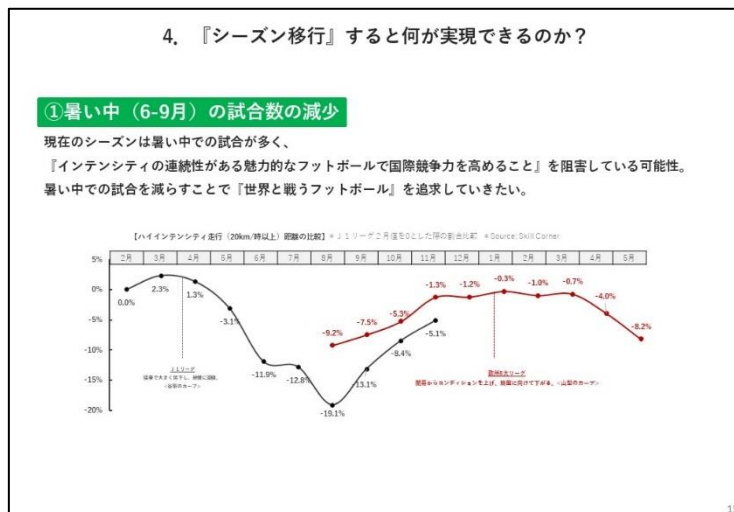
要因としては2つございます、1点目は、“外部環境の変化”です。

外部環境の変化というのが何を指すかという、アジアチャンピオンズリーグ（以下：ACL）の日程が、2024年から8月に開幕し、5月に決勝を行うスケジュールに変更となりました。今のスケジュールに当てはめるとACLの予選と決勝トーナメントでシーズンを跨ぐことになっていしまうため、冒頭で申し上げた、“アジアで圧倒的なリーグ”を目指すJリーグ、日本サッカーにとってフットボールの観点から検討することとなりました。



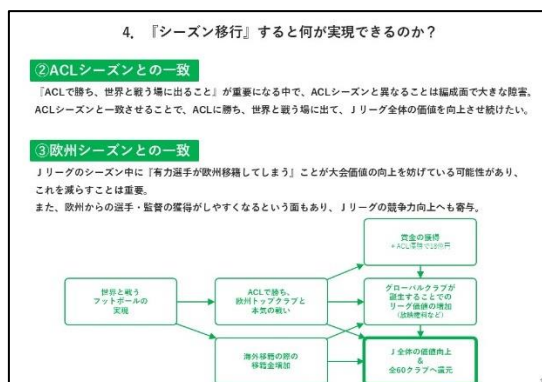
もう1点は“日本にとって最適なカレンダーを考える”ということで、現状のスケジュール、真夏に数多くの試合が行われリーグの中盤である8月に選手のパフォーマンスが低下していることなどははじめ様々な視点から、Jリーグ・日本サッカーが成長するためになにがベストなのか？という観点からシーズン移行を検討しております。

3. 『シーズン移行』すると何が実現できるのか？



グラフの黒い部分が現在の J1 リーグ平均のハイインテンシティ走行となっており、赤がヨーロッパの 5 大リーグとなっております。

現在の J リーグの状況だと 2 月・3 月からスタートすると 7 月・8 月に暑さの影響でパフォーマンスが下がっています。リーグの中盤・終盤にパフォーマンスが下がるというのは、フットボールの観点から議論がある中で 8 月開幕にすると、開幕の時点では 100% のパフォーマンスではないとしても、リーグの中盤/終盤になるにつれてパフォーマンスが上がっていくことということでシーズンを通して高いパフォーマンスの発揮が、シーズン移行すると実現できるのではないかととなっております。



上記資料は、ACL、世界のカレンダーと合わせることによって今年、浦和レッズが ACL 優勝したように、毎年 J リーグのクラブがアジア No.1 になることによって、J リーグがより魅力的なリーグになるという価値につながっていき、放映権などに良い影響がでできます。結果それが豊富な資金が得られる可能性につながり、最終的それが J リーグ 60 クラブに分配されるような仕組みができるとリーグ全体に良い影響をもたらす。といった内容です。

4. 『シーズン移行』すると何が実現できるのか？

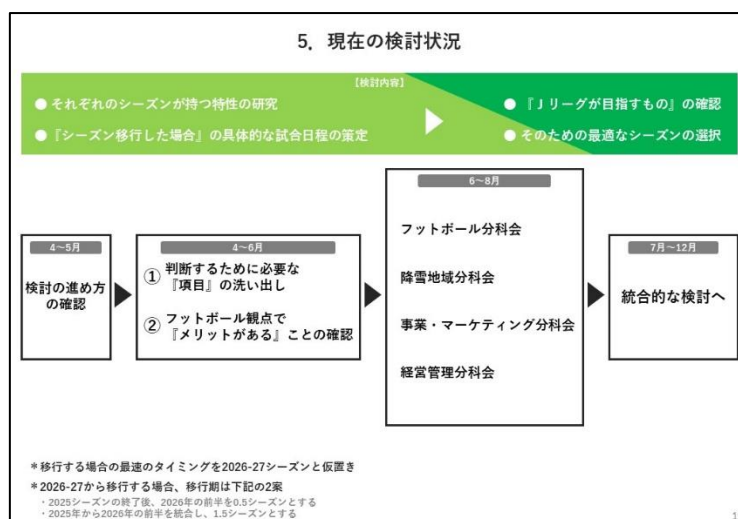
▶ 様々な懸念事項も存在



17

非常に簡単にですが、ポジティブな面を話させていただきましたが、一方で様々な課題があるということも事実です。いま出ている課題をいろいろと詰めていかなければならないといけません。こちらはまた後程詳細お伝えさせていただきます。

4. 現在の検討状況



現在の大きく4つの分野（フットボールの競技面・降雪地域・事業/マーケティング・経営管理）それぞれの分野で検討した際にシーズン移行するメリット/デメリットを議論する会議を重ねてきました。

年内に方向性を決めたいというような報道も出ていますが、何か決まったということは無く、ぜひこの場で皆さんから率直な意見を聞きながらリーグにあげていくというような流れを作っていきたいと思っております。

5. 現在の検討状況

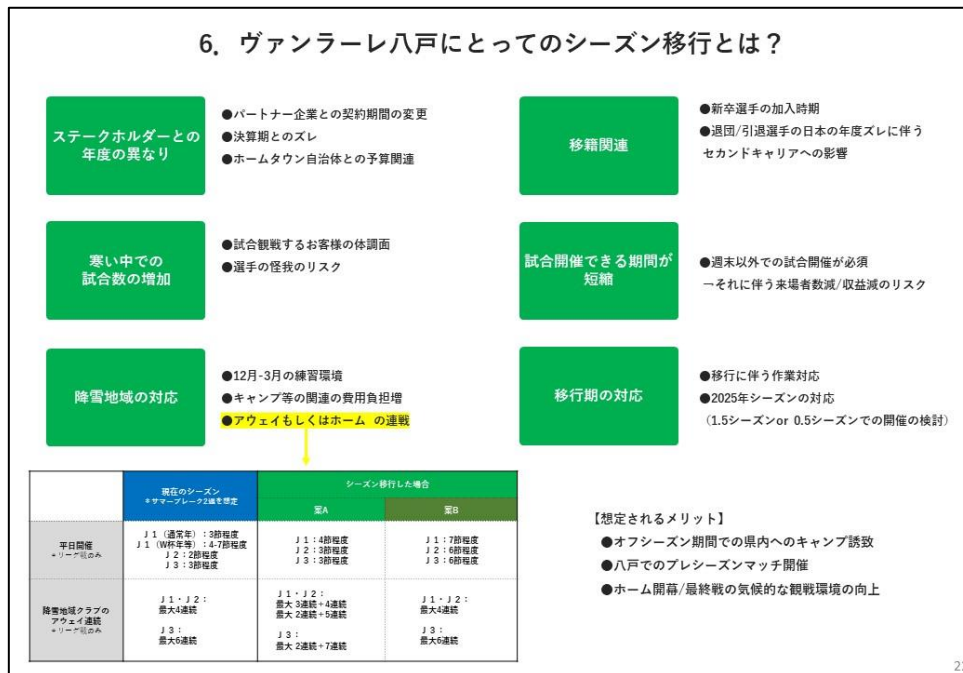
<p style="text-align: center;">フットボール分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●試合日程シミュレーションの確認 ●フットボール水準のデータに関する意見交換 ●移行する場合の「移行期の大会方式」の初期整理 ●JFL/地域リーグ/大学/高校への影響の初期整理 ●スタジアム確保への影響も重要論点であることの確認 ●「シーズンオフ・ウィンターブレイクの過ごし方」の整理を開始 	<p style="text-align: center;">事業・マーケティング分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●試合日程シミュレーションを基に入場者数シミュレーションを開始 ●移行する場合のマーケティング計画の初期整理 ●各種ステークホルダーに関連する検討事項の確認 ●マーケティング担当のグループ討議を実施 ●事業担当のグループ討議を実施
<p style="text-align: center;">降雪地域分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●降雪地域の施設関連における情報共有 ●試合日程シミュレーションの確認 ●12月・2-3月のホーム開催NG期間の確認 ●遠方でキャンプを行いながら試合をする期間の確認 ●追加発生するキャンプ負担の確認 ●基礎的な気象データの共有 	<p style="text-align: center;">経営管理分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●移行期（0.5 or 1.5）の検討事項の確認 ●決算期の検討事項の確認 ●税務の検討事項の確認 ●クラブライセンスの検討事項の確認 ●F/Lへの影響の検討事項の確認 ●資金繰りへの影響の検討事項の確認

20

5. ヴァンラーレ八戸にとってのシーズン移行とは？

【細越】

菅原からも説明があったように、今はまだ、移行する/しないというところについての議論をしていますので、何かが決まったわけではございません。そのうえで皆様から様々なご意見を頂ければと思います。ほとんどのクラブがJリーグや日本サッカーにとってのメリットとして、先ほど菅原が説明させて頂いたような部分についてはある程度納得していますし、これから先Jリーグが欧州とヨーロッパと同じような立ち位置でしっかりと質の高いサッカーを皆さんに見ていただく、そして選手たちもパフォーマンスをあげていくという環境づくりということに関しては、私自身もほぼ異論はありませんし、今後のJリーグのビジョンとして掲げていくというところは共感しております。ただ、論点としては課題があるというところをしっかりとチームとしても、クラブに関わるステークホルダーの皆さんと情報共有をして課題をクリアすることを前提とした上で、シーズン移行に関しては前向きに検討できるかなという風に思っております。



その課題についてですが、資料に記載しております通り、6つの課題をリーグと共に整理してまとめております。

“ステークホルダーとの年度の異なり”というのは、多くの企業の皆様が3月決算でこのタイミングで来季応援していただけるかどうかというのを話しさせていただいております。それが8月開幕になりますと多くの各企業様の予算組の観点から課題感を感じています。例えば、J3からJ2へ昇格した場合は、どういう風に見ていくのか。というのは、多くのクラブが心配事としてあげております。

ホームタウンの自治体の皆様についても同様に4月新年度となりますので、シーズン移行に伴い課題が出てくるかと思っております。

次に“移籍関連”に関しても、ヨーロッパのシーズンとほとんど一緒になりますので日本から海外に、もしくは海外からの日本に来るということに関しては今までよりもスムーズにいくというプラスの面もある一方で、大学生や高校生の受け入れはどう考えるのかというところについては、まだ何も結論が出ていなく、調整をしている状況です。そして年度の途中にシーズンが終わってしまったときに、選手が現出来引退した後のセカンドキャリアなどの観点についても議論もあがっております。

また、“寒い中での試合数の増加”とありますが、先ほど菅原からの説明でもありましたがB案ですと、これまでのシーズンとウィンターブレイクがあること以外は変わるということは特にございませんが、逆にウィンターブレイクによって、アウェイゲームの連戦が増えます。

2月1週目からスタートしますとおそらく3月の中旬まで6試合程度のアウェイゲーム連戦になる可能性もあります。

1月～2月は降雪で県内でのトレーニングはできませんので、これまでは県外へのキャンプ地でトレーニングを行っていたのですがシーズン移行すると、キャンプ地からアウェイの試合に臨んでキャンプ地に戻るとというのが1か月半続くという状況にはなるのではないかと考えられます。

これは、八戸だけの問題ではなくて降雪地域クラブにとっての大きな課題です。もちろんそこに対する金銭的な負担や長期キャンプで家に帰れない選手のコンディションなどの課題は降雪地域以外のクラブとの差が大きく出てくるといったこともあるでしょうし、またサポーターの皆様におかれましてはアウェイゲームに多くの方がお越しいただいておりますが、アウェイゲーム連戦となると、金銭的な負担や日程調整などですごく難しい問題だと感じております。

またアウェイが連戦するという事はホームゲームの連戦にも繋がります。今まで日程調整してご来場いただいておりますサポーターの皆様も、ホームゲームの連戦が続くことにより、集客面において影響が出てくるのが想定される観点でいうと大きな課題と感じておりますし、他クラブの方からもそのようなご意見を伺っております。

しかし現状だとそれぞれの課題に対する解決策というのは今のところはまだはっきりと出ていないものが多くあります。“試合開催できる期間が短縮”というところは、B案であれば平日開催が6試合くらいに増えると思います。平日開催のメリット/デメリットあると思うのですが、クラブ経営としても観客動員また、収益への影響もございます。これもまた継続で議論しているところです。

先ほどの話と重複するところもあるのですが、降雪地域の対応のところ、12月から3月の練習環境にも大きな課題感を感じています。

これはシーズン移行に関わらず降雪地域では常に悩んでいるところですが、シーズン移行するとさらに顕著に出てくると考えられます。地元でトレーニングできないとなると、地元での地域活動などにも影響がでるか感じており、地域密着のクラブとしては大きな問題だと思っております。

移行期の対応については、確定ではないですがもし移行した場合には2026年からのシーズン移行を目指して今議論をしておりますが、今後の議論によってこの話がなくなることもありますし、先延ばしになることもあるのですが、もし仮に移行したとすると12月の1週目2週目に試合が終わり、そこから8月開幕にシーズン移行するまでの間どうするのかという問題（その間をシーズンとして半年間サッカーをするのか、1年半というシーズンを組むのか、その半年で昇降格するのか、昇降格をなしにするのか）があり、移行すると決めたタイミングでどのようにリーグを行っていくのが大きな論点だと思います。

今申し上げたこと以外にもいろいろな方法論が出ておりますが、そこも議論しているところです。

6つの課題感の他にも、私個人的にとってもそうですし、他のクラブの方々、今日お越しの皆様も疑問に思っているところはあるかと思えます。

夏の暑い時期に選手のパフォーマンスが落ちるのでその時期は避けましょう。という中で、なぜ8月の1週目にスタートするのを選手たちのコンディションを考えたときによしとするのかという点は今でも疑問に思っております。

8月・9月にリーグ戦をすることに対し、フットボールの向上させていくという面で果たして正解なのかどうかというのは皆さんにご意見を頂きたいと思えます。

私の方から課題の方の説明をいたしました。繰り返しになりますがまだ何も決まっているわけではございません。移行することが日本サッカーにとって、あるいは地域のクラブにとってどういうプラスの影響/マイナスな影響があるのかを、

しっかりとJリーグの方にも八戸の地域の声として私の方からあげていきたいと思っております。最終的な結果がどうなるかはわかりませんが、しっかりと声が反映できたというような形にしていきたいので、残りの時間でぜひ皆様からのご意見を頂ければと思っております。

6. ご意見・ご質問回答/質疑応答

【細越】

事前にくつかご質問頂いたものがありますので、それについて簡単に答えさせていただきます。

“芝生の管理は大丈夫なのか？”というご質問ですが、芝は今年本当に厳しい状態で、試合会場にお越し頂いた皆様はわかっているかと思いますが、非常に状態が悪くなかったと思っております。もちろん一生懸命管理をさせて頂いてはいたのですが、これは我々のスタジアムだけに関わるのではなく、今年の暑さで芝生が傷んでしまっているスタジアムが多くあります。特に青森県内の天然芝のグラウンドというのはかなり大きなダメージを受けておりますので、今年の経験をもとにしっかりと選手たちにとって良いパフォーマンスができるように管理をしていければと思っております。

次に、“冬の降雪時におけるホームゲーム開催の中止判断基準と安全対策について聞きたい”というご質問をいただいております。

ホームゲームの開催につきましては基本的に主管がJリーグとなっておりますので、Jリーグと両チームの間で、開催をするかどうかの判断を致します。私たちだけで判断できるものではなくて、その状況をしっかりと鑑みての判断になっていくと思えます。

次に“新卒の選手たちの合流はどうなるのか？”

というご質問についてですが先ほど申し上げた通りで、今継続議論の最中ですが、非常に大事な観点だと考えております。高校生で考えると、サッカー選手権が始まるちょっと前にJリーグのクラブに合流した場合にその高校生のチームの戦力が落ちてしまうのではないかとこのところもひとつの論点としてありますので、両方掛け持ちできるのかできないのかということも出てくるかと思えます。移行の期間9~11月に学生は大事

な大会があってJリーグはその開始のタイミングで選手が欲しい。じゃあ、学生のチームの主力選手を引き抜いてJリーガーにするのをよしとするのかというような議論がございます。

次に、“ヴァンラーレ八戸はどういう立ち位置なのか？”かというご質問を頂いております。こちらもお伝えいたしておりますが、

ヴァンラーレ八戸としてはJリーグの理念・考え方には賛同しておりますが、課題というところをしっかりとクリアすることが賛成の大前提となります。課題を残したまま前に進んでしまうとあとで大変な思いをするということが無い様に、課題を解決しながら応援して頂いているサポーターの皆様、行政の皆様、ステークスホルダーの企業の皆様にとしっかりと納得していただいたうえで賛成をするというような形をとればと思っております。

一旦いただきましたご質問等への回答となります。私からは以上です。

【菅原】

今ご説明した中にもよく分からない部分もあったかと思えます。

その中で、ご意見やご質問をいただきながら意見交換できればと思えます。

まず、何か感想等でも構いませんので、どなたかございますでしょうか？

■ご意見・ご質問回答／質疑応答

【ご発言者：サポートスタッフ】

北海道コンサドーレ札幌では先週オンラインでの意見交換会があり、札幌は条件付きで賛成の立場だそうです。

練習環境等クリアしたうえでの条件付きの賛成になるので、考えてみたら八戸も条件付き賛成になるのかなと思っていました。

今の説明の中で、選手の加入時期やアウェイが続いた時のキャンプ地から帰って来れないことでの選手のストレス等、札幌でもあることだと思いますので、札幌でも開幕戦はホームでやったとしてもすぐキャンプ地へ行き、トレーニングしながら移動するということになるので、どうしても開幕前後は調子が出ないところもあり、同じことがヴァンラーレでもいえるのかなと思ひ、難しいなというところです。

【細越】

ありがとうございます。

本当に、札幌はずっとそのように、ホーム開幕を迎えてからキャンプ地に行つてというような、野々村チェアマンも、もともと北海道コンサドーレ札幌で社長やっておられましたので、降雪地域の課題というものにとてもご理解をいただいております。

しかし、降雪地域の練習環境への課題をご理解を頂いている中で、今後変化していかなければいけないのではないですか？というのがチェアマンの考え方だと認識しています。

ただまだ具体的に何か決まっていることではなく、サポートとしないといけないという考え方がありながらもすぐに解決できないこともあるかと思います。

また、アウェイ連戦も大変ですがホームが連戦になった時も毎週サポートスタッフの皆さまにサポートに来ていただくのかという点については大変心苦しい部分でもありますし、リーグの公平性を考えたときに、アウェイ連戦ホーム連戦が増えない方が良いと思います。

【ご発言者：ホームタウン 自治体関係者】

まずステークホルダーとの年度の異なりの件ですが、ホームタウン自治体との予算関係ですが、こちらは今もずれているのでこちらは特段問題ないと思っています。

お伺いしたいのが、週末以外の試合開催についての来場者数減・収益減について何かお考え等あったら教えていただきたいです。

【細越】

ありがとうございます。

決算期に関しては、確かにご対応いただける部分も多くあると思いますので、現状も私たちが1月末決算で、他ステークホルダーの皆さまと期ずれはしていますが、その期の幅が少し広がってしまうかなというところのご説明です。

また、平日の開催が増えるところですが、今のところJ3であれば、先程のB案というシーズンがあまり変わらない案になるかと思うのですが、6試合は最低でも平日開催になるという風に言われております。それに対する具体的な平日の集客に対する対応策ですが、今のところございません。ただ、今年モンテディオ山形さんが、学校の行事としてクラブから教育委員会、教育委員会の皆さまから地域の学校に働きかけて、地域の小中学生をご招待し、平日のお昼にご招待して試合をした事例もありますので、そのようなアイデアを活かすことだが大事かと思っています。ただそのためには事前の準備がかなり前必要になりますし、一番大きな問題は雨が降った時に対応できるのか、仮に学校行事として行ったときに雨が降っている中かっぱを着て2時間試合を観てもらえるのか。これはなかなか厳しいことだと思いますので、シーズン移行に関して移行するのであればそういう前向きな部分は考えていけないところだと思いますので、平日休みの方に対するアプローチ等、平日開催に関する部分も考えながら対応していかなければと思っています。

【菅原】

ちなみに補足ですが、今年も一度、琉球戦が中止になり、平日開催になったパターンがあり、平日の集客は本当に苦労いたしました。またボランティアスタッフの皆さんやサポートを

してくださる方も仕事を終えてサポートいただいておりますので、運営上でも様々な課題が出てくるという想定です。これが年間6試合に増えるとなると大変だと感じています。

企画に関しても苦戦はするものの、様々なクラブから面白いアイデアがございますし、それをクラブ間で共有することもあります。良いところは真似させてもらいながら自分たちの色が出せるように進めていきたいと思っています。

また、もしかしたらご存じの方がいらっしゃるかもしれませんが、2024年からルヴァンカップというカップ戦が大会方式が変わり、J1~J3全クラブ参加になります。ノックアウト方式で、下位カテゴリーがホームになるような仕組みになっています。

試合自体は恐らく平日開催になるのではないかと思いますので、日程が確定し次第、準備していかなければいけないと思っております。

【ご発言者：サポーター】

水曜日開催が最低でも6試合増えるということですが、全クラブ日→水→日での開催になるのか、土曜日開催のところも出てくるのか、そういった部分が気になる点だなというところと、デイなのかナイターなのかそれでも変わってくるのかなと思います。

選手たちの疲労感を考えれば夏場開催するメリットデメリットが出てくるのではと思うのですが、そういった部分どうお考えでしょうか？

【細越】

仮にシーズン移行したとしますと、移行したタイミングでまずJリーグである程度の日程が出たのち、ホームクラブでスタジアム確保/調整となります。なので、水→土の可能性もゼロではないですし、デイゲームなのかナイトゲームなのか、いろんな環境によって変わってきます。

夏場であれば8月頭の開催でそれが平日であっても週末であっても、ナイトゲームでの開催となりますので、クラブの考え方で変わってくると思いますが、スケジュールに関しては、ある程度前にはスケジュールがでますので、その上で、スケジュール調整していくことになります。

【発言者：株主】

外部環境の変化とシーズン移行の部分をもう一度教えていただきたい。

シーズン移行の検討のポイントとして、外部環境の変化を挙げていますが、クラブワールド杯やACLの参加クラブというのはどういう条件で参加となるのでしょうか？。

【細越】

ACL はリーグ優勝・準優勝と天皇杯優勝クラブが主な出場クラブとなります。

クラブワールド杯に関しては、ACL での優勝が条件になってきますので、その点、今 J3 リーグにいる私たちにとってはイメージしずらく部分があるかと思います。

日本サッカーの競技レベルを上げる、日本サッカーのチーム自体の規模を高めていくというのがシーズン移行の大きな趣旨になっています。

日本サッカーも世界のクラブに追いつかなければいけない、そのためには標準を世界に合わせていかなければいけない、世界に合わせるためには ACL でしっかり勝ち、良い選手が海外に行ってそこで大きな移籍金をもらいクラブが成長するというかたちの入り口です。

ACL は日本のチームが勝てば枠が増えるなどあるが、いずれにしても日本サッカーがより海外に通用し、海外で活躍する選手が増えて、でも J リーグももっと盛り上げないといけない、良い選手が軒並み海外に移籍すると J リーグは盛り上がらないのではないか？という矛盾点はありますが、ただ日本サッカー全体を考えたときにはそこで良い選手を輩出するクラブが大きな移籍金をもらい、そこでまた良い選手を育てる、そういう環境づくり、その J リーグのチームから良い選手が海外に行けば、選手とクラブ両方を応援できるので、先程放映権の話にもありましたが、DAZN 等の視聴者数も伸びるのではないか、というのが話の大枠の入り口の部分です。

資料に関してですが、もう少し丁寧に説明できる資料、詳細がクリアになる資料をご提供できればと思います。

【発言者：サポーター】

J リーグ・日本サッカーの現状認識というところで、プレミアリーグとの比較がされているので感じたことがあります。プレミアリーグは外資があると思います。また、選手も極端な話、イギリス人が全くいないプレミアリーグのチームも組めるという状況にあると思います。日本はおそらくアジア枠と外国人の枠というのがありますが、ヨーロッパはレベルの高い選手がたくさん所属したりという整備を整えて盛り上がっている中で果たしてシーズン移行だけで日本の J リーグがそのようなヨーロッパの主要リーグに競争できるのか。そういった部分をまず整備しないと競争ってできないのではないかという思いがありました。

【細越】

ありがとうございます。

ぜひ J リーグの方にもその話をさせていただきたいと思います。

外資に関してはやはりシーズン移行と関係なくあるのかなと思います。

海外選手を何名使えるやアジア枠についても検討し、変わっていくところかなと思います。ですので、日本サッカー・J リーグというものが今後どう前に進めていくのかによって、

様々なルールが変わっていく可能性もありますので、もしかしたらいつか日本のクラブに日本人がいないようなJリーグのチームができる可能性もあるのかもしれないですね。

今後、Jリーグでしっかり協議をして、決まったことに関してはリーグからもリリースしていただきますので、ご覧いただければと思います。

【発言者：サポーター】

ヴァンラーレ八戸にとってのシーズン移行のところで、メリットが分かりづらいです。

例えばキャンプ地に誘致した場合に、プレシーズンマッチでJ1のチームと組める、そういったときにマッチスポンサーとしてもどのくらい注目度が上がるといった部分のメリットが少し強調されていないのではと感じました。

また、夏のオフシーズン時の県内のキャンプ誘致は、八戸限定で見たときに、J1規模のクラブがキャンプをする設備が県南地域にあるのかと感じた。

【細越】

プレシーズンマッチについてのメリット部分ですが当然考えていかなければいけないところだと思っています。

またキャンプ等についても仮に移行した際に、八戸は他地域に比べれば涼しいという中で、キャンプ地の候補として誘致をしていく可能性という模索していく必要もありますし、J1のクラブとトレーニングマッチやプレシーズンマッチが仮にできれば非常に良いことだと感じています。

平日にJ2チームがJ1チームを呼んでキャンプやトレーニングをしたら、何倍も人が入った事例も聞いているので、それは地域にとってはプラスになるのではないかと考えております。

また、夏にそれぞれのチームがキャンプを考えていかなければいけないとなった時にやはり降雪地域・北国はトレーニング環境としては非常に夏は天候的には良いと思いますので、観光・宿泊の部分を含めた環境整備など多くの方をお迎えできるのかは、クラブだけでなく行政や・観光業の様々な方とも協議し地域の活性化も検討する内容だと思っています。

【発言者：サポーター】

シーズン移行について、マスコミでは数チームが反対、大半が賛成でそのまま移行するのではないかという話があるのですが、具体的に反対のチームは分かるのでしょうか。

また、ヴァンラーレ自体移行に対して賛成か反対か。選手はそれをどう受け止めているのかをわかる範囲で教えてほしいです。

シーズン移行のA案とB案はもうそれで決まっているのかも教えていただきたいです。

【細越】

ありがとうございます。

最初のご質問の反対のチームはどこかという部分については控えさせていただきますが、少なくともすべてのクラブがJリーグが今後目指していかなければいけない姿、要するに日本サッカーはもっと高みを目指していけないといけないという点には理解をしていますし、賛同しています。

そしていま議論を進めているシーズン移行について「では進めましょう」ではなく、大きな課題を解決しながら進めていきたいと思っております。

私たちはプライフーズスタジアム、サッカー専用スタジアムでやっていますので、スケジュールを組む点では幸い陸上競技場を併設しているクラブの方と比べると少し、調整しやすさがありますが、多くのクラブが陸上競技場での試合開催となると日程調整が現実論として無理というクラブもあります。例えば大体11月12月くらいにいろんな競技団体と話を進めている中で、それが6月7月にスタジアム調整しても陸上や他イベントの予約が入っており、スタジアム確保が現実的に組めないというようなクラブもあります。

日本サッカーに対する考え方は反対ではないが、移行するということだけをピンポイントで考えたときには、様々な解決できないのではないかという問題も発生しているという状況に対し、そんな中で私たちのクラブとしての考えは、日本サッカー協会、Jリーグの目指すものはこれから先サッカーの発展のためにはいいことだと思うのですが、課題をどう解決できるような状況にしてから初めてシーズン移行の話に進むものだと思っているのです。私としては皆さんからご意見をいただいて、チームとして地域としてこういうところは解決してくださいという部分をJリーグに持ち帰りたいなと考えています。なので、チームとしては、大きな問題が解決できないのであれば賛成はできないが、その課題が解決するのであればということを経営に賛成できるというスタンスです。

また選手の方は、直接この件に関して話はしていないのですが、選手の代表は選手会で各チームの代表が集まり、話し合いをする予定です。

A案B案は、Jリーグの方で日程を調整し、シーズン移行した際にJ1チームJ2チームJ3チームが可能な限り負担が無いようにスケジュールを組んだときに、現状だとA案とB案のふたつが最適案になるであろうということになっておりますが、何決まっているものではないと思います。

【発言者：サポーター】

移籍関連のところ、年度が替わることでのキャリアへの影響があると書いてあるのですが、ウィンターブレイク中に引退する選手が出てくる可能性はあるのでしょうか？

【細越】

この移行の話にそこまで踏み込んだ部分の話は出ていないのですが、セカンドキャリアについてお話しすると、6月にシーズンが終わってしまうので、ウィンターブレイクというよりは、6月頃から契約関連の話が進むことになるかと思います。（選手が引退したなどの場

合) 6月7月は日本だと中途採用となるので、そこは課題感としてJリーグでもあります。実際どうなるかは私もわかりませんが、時期関係なく良い個性・良い人間性があればシーズン関係なく採用していただける企業さんあるかと思います。

【菅原】

補足ですが、ウィンターブレイク中に引退という感覚が、今のシーズンでいうどんな感覚かという、今年でいうと7月末のタイミングで引退するというような感覚です。もちろん可能性としてはゼロではないと思いますが、シーズンの真ん中での引退というのはあまり考えづらいのかなという感覚は私としてはあります。

【発言者：メディア】

この議論を今後Jリーグに伝えていくと思うのですが、議論をJリーグに伝えるスケジュール的な部分、例えば今回のような会を今後開く予定があるのか、また、取りまとめるとしたらどういった形でJリーグの方に伝えていくのか、ある一方ではJリーグは意向を年内に決めるのではないのかという話も聞こえてくるのですが、この内容をJリーグに伝えるとしてもできる期間というのがかなり迫っているのかなと感じまして、そのスケジュールリングをお伺いしたいのと、県内にはラインメールさんもあるわけで、先程からうかがっている降雪地域のチームならではの懸案事項等もあると思いますが、ラインメールさんとの横のつながりだったり、どのような話をされていて、今後どのような形で取りまとめをするのか、教えていただければと思います。

【細越】

ありがとうございます。

私たちは今回初めて意見交換会を行わせていただきましたが、既に何度もこのような意見交換会を行っているクラブもありますし、まだ行っていないクラブもごございます。

今日いただいている話の内容に関しては、11月行われるJリーグの会議にあげさせていただきます。また、今日この会議をやっていることについてはJリーグの方には既に伝えていきます。この議論がいつ、どう決着をするのかというところですが、正直まだわかりません。仮にJリーグの60チーム全クラブが賛同すれば議論は終了となり、次のステップへと進みますが、様々な側面から課題が出ていて、「課題は解決しようよ、解決して次に進みましょうよ」というクラブ何チームもあるのも事実です。ですので、落としどころを決めるのか、そう決着をつけるのか私もその辺は分らないのですが、早めにこの件に関してなにかしらの決着をつけたいというのはあるかもしれませんが、具体的なところについてはまだ何も決まっておりません。

また、ラインメール青森さんとの降雪地域というところでの調整に関しましては、今のところこの議論はJリーグの中で行っているというところですので、今はラインメール青森さん

とは関わっていませんが、現状ラインメール青森さんもJリーグに昇格する可能性もありますので、そうなった場合は降雪地域クラブ同士としてどのように対応していくのかしっかりとお話ができればと思います。

【発言者：パートナー企業】

パートナー企業としましては、契約期間の問題や予算の問題は、事前にそれがわかっているならば問題ないのかなと思っております。その上で協賛するうえでは、入場者数は大変興味深い部分だと思っています。

現状で収益減や費用のなどのシナリオやどのくらいになるのかを想定したものがあれば教えていただく多いなと思います。

【細越】

ありがとうございます。

パートナー企業の皆さまに支えられておりますので、いずれの問題も特に事前に分かればということは大変ありがたいお話です。

また、平日開催が増えることでの、観客動員数や収入が減ってしまう懸念、またシーズン移行に関して負担が増えるのかということなのですが、Jリーグ側としても全くそれを負担しないというスタンスではないです。やはり今までと全く違う状況になった際に、Jリーグ側としてもしっかり補填をしたい。もしくは今後を見据えて様々な環境整備も含めてしっかり整備をしたいというお話はいただいています。

その中でも、例えば平日開催が増えたから観客数が減った部分については、Jリーグが補填する部分ではなく、クラブの努力になるような認識ですので、非常に苦しい状況ではありますが、しっかり平日も魅力的な試合をできるような施策を、移行すると決まった暁には検討していかなければいけないと思いますし、幸いにも来年から平日開催の試合もありますので、カテゴリーが上のチームなのでそういう上のチームの皆さんにもしっかり楽しんでもらえるような知試合の環境づくり・雰囲気作りの練習をして、この議論が決着した方向に向かっていければと思います。

収入減等の算定に関してですが、この通りに行ったとしますと、やはり平日開催が増えますので、そこは減ってしまう可能性があります、そうならないように検討していくしかないと思いますし、逆により魅力的なチームになって毎年しっかり確保できるよう頑張っていくしかないと思っています。

【発言者：パートナー企業】

平日開催が増えることで入場者数が減るということで、ヴァンラーレさんは昨年入場者収入が最下位ということで今年少しチケットの価格を上げ、努力しているということは分かるのですが、8月23日の平日開催は約800人で4桁行かなく難しい、普段3,000人を目指し

ていても難しいということで、従って個人としては週末に試合を増やすことが大切なのではないかというところでA案がいいのではというところです。

集客を増やすにはスタジアムの問題が大きいと感じていて、バックスタンドが芝生席でメインにしかベンチがないというところで、

5年後10年後どうあるべきか、こう歩きたいというビジョンやシナリオをステークホルダーにも示していただきたいなと思います。

地方のクラブ、降雪地域でピンチかもしれませんが、これをチャンスにとらえてステップアップできる機会ととらえましたので、私たちも支援していきますので、その辺の戦略を是非オープンにしていきたいと感じております。

【細越】

ありがとうございます。

シーズン移行するとなった場合はどのクラブの平日開催が増えるのは厳しいという話になっています。ただそれも解決しなければいけない課題で、やるとすればそこで800人ではなく、3,000人を目指し努力していかなければいけないと思っています。

スタジアムの件に関しましては、芝生やバックスタンド、屋根の件等スタジアムとしての課題はしっかり理解していますし、解決していかなければならないと感じていますので、今後、八戸市様と協議をしながら、皆さんに快適なスタジアムで観戦してもらえるようにしていきたいと思ひますし、皆さんにチームとしてや検討状況に関しても、オープンにできる部分はできるだけオープンにし示していきたい。

【発言者：サポーター】

シーズン移行については議論があると思うのですが、降雪地域分科会のところで、圧倒的に降雪地域が不利な条件で、暖かいクラブは悩み事もなく進む状況だと思うのですが、分科会においてJ1クラブJ2クラブJ3クラブがある中で、暖かいクラブと降雪地域の選手獲得に対する比較、獲得費が倍かかるなどの話が合って進んでいるのか、それともただ移行してしまうのか、賛成／反対なのか、そのようなシミュレーションがある中でやっているのか、ない中でただやっているのかお伺いしたいです。

【細越】

ありがとうございます。

そもそもこの議論は、シーズン移行したらどのようなことが起こるのかという入り口で議論が進んでおりました。しかし漠然として何も進まない状況になり、4つの分科会を立ち上げました。それが経営面や降雪地域の対応等4つに分けて各担当やクラブの代表者が入り何度も意見交換をし、毎月のJリーグの会議でフィードバックをするというような形になっています。

今のお話の通り、降雪地域の予算というのは議論の中では上がっていなかったのでありがたいお話だと思いますし、一つの論点として持ち帰れればと思います。

ただ実際に費用が追加でかかるという話は、特に降雪地域から出ています。キャンプが年に二回発生する点は夏・冬両方キャンプをするのか、今まではキャンプに行き行って戻ってきて今けど、2月頃は練習ができないため、試合の際は登録選手・スタッフがキャンプ地から遠征に行き、その間ずっとホテル暮らしで様々な環境を整備していかなければいけないということになると、当然想定していた予算より高くなるので、少なくとも降雪地域すべてのクラブの課題になると思います。その点、Jリーグにどのような具体的な支援となるのかはすごく大きな論点かなと思います。

【発言者：サポーター】

降雪地域クラブはシーズン移行に敏感なっていて問題もたくさんありますし熱中症対策も2-3年後ではなく来季からやっていかないといけないのではと思っていました。

来季からルヴァン杯もありますし、8月頃にルヴァン杯は北海道東北地域での集中開催や、天皇杯は逆に九州四国での集中開催といったようなことをJリーグやサッカー協会に提案していくことも一つかと思っています。

大きな問題としては、秋春制だけではなく、アルゼンチンリーグでは1年間に2シーズンある話も聞いたことがあるので、そのような自由な発想があってもよいと思う。

【細越】

ありがとうございます。

シーズン移行に関しましては、何も決まっていることではありませんので、天皇杯のスケジュールも具体的に確定しているものではございません。今年のような猛暑が来年度以降も続くことは十分考えられますので対策を考えて参ります。

ご意見いただきましたカップ戦の方式なども含めてしっかりと頂きました意見として、議論があった際にはそういうお話ができればと思います。

【菅原】

他に何かご意見やご質問などいかがでしょうか？

それではお時間も迫ってきていますので、最後細越の方からご挨拶をさせていただきます。

【細越】

約2時間にわたり、皆さんにお付き合いいただきありがとうございます。

この議論に関しては、様々な報道がなされている中で、今の時点で決まったものをごさいます。ただこの議論の課題の洗い出しをして、課題に対して解決に向けて努力をしなければ

いけない中で、そこがクリアにならないければシーズン移行は少し難しいのではないかと思っております。

なので、クラブに関わるステークホルダーの皆さんにとって不利益にならないようにしたうえで次のステージを目指していくということが、私含めクラブの考えですので、まずしっかりと課題と向き合ったうえでJリーグの将来であったり、日本サッカー協会の将来の目指しているところに賛同しながら、しっかりと考えて発言をしていきたいと思っています。

おそらく多くのクラブが賛同若しくは反対のバランスがしっかりとれる状況でJリーグとしても、Jリーグを形成しているのが60クラブのチームですので、J1であってもJ2であってもJ3であっても1つのクラブの意見がしっかりと聞いていただける組織にはなっていますので、しっかりと声を上げて課題に向き合っていきたいと思っています。

最後に長時間でしたがご参加いただきましてありがとうございます。次回こういう機会を開くことができればぜひご参加いただきまして、皆様からのご意見をいただいてJリーグの方にいろんなお話ができるようにしていきたいと思っておりますし、シーズン移行だけではなく色々な問題、側面で皆さまからの声をいただけるような場も作っていきたいと思っておりますので、その際には是非よろしく願いいたします。以上です。ありがとうございます。